2011 年（平成 23 年） 3 月 26 日　土曜日

デーリー東北新聞　掲載

八戸勇気づける春1勝

光星全校生徒 学校から声援

「もっと勝ち進んで」

「勝ち進んで八戸を元気づけて」。甲子園で戦うナインを応援する生徒たち＝23日午後3時ごろ、光星体育館

被災地・八戸を勇気づける“春1勝”。第83回選抜高校野球大会で、八戸市の光星が初戦の水城（茨城）戦を迎えた25日、光星の体育館には全校生徒と教職員ら約600人が集まり、甲子園で戦う選手を声援で後押しした。東日本大震災からの復興が続く八戸にとって、光星が勝ち取ったセンバツ初勝利は大きな励み。同級生らはナインの勇姿を感激の面持ちで見つめ、「もっと勝ち進んで八戸を元気にして」とさらなる躍進に期待を寄せた。

初戦には前3年生全員が応援に駆け付けるはずだったが、震災の影響で中止に。自宅が浸水し、今も避難所や親類宅に身を寄せている生徒もいるという。

体育館には大型スクリーンが用意され、座席を扇形に配置して甲子園のアルプススタンドをイメージする工夫も。吹奏楽やチアガールは、甲子園さながらに応援に力を込めた。

光星は初回に先制し、その後も着々と加点。応援団は「ヨイサー、ヨイサー」と、今回初めて八三社大祭のお囃子（はやし）を取り入れた応援歌で盛り上がった。

チアリーディング部員で初2年生の秋美穂さん（心）は「甲子園を楽しんで、とにかく勝って」とエール。川上竜平主将の友人で新3年生全員が応援に駆け付けるはずだったが、震災の影響で中止に。自宅が浸水し、今も避難所や親類宅に身を寄せている生徒もいるという。

体育館には大型スクリーンが用意され、座席を扇形に配置して甲子園のアルプススタンドをイメージする工夫も。吹奏楽やチアガールは、甲子園さながらに応援に力を込めた。

光星は初回に先制し、その後も着々と加点。応援団は「ヨイサー、ヨイサー」と、今回初めて八三社大祭のお囃子（はやし）を取り入れた応援歌で盛り上がった。

チアリーディング部員で初2年生の秋美穂さん（心）は「甲子園を楽しんで、とにかく勝って」とエール。川上竜平主将の友人で新3年生の平節真理奈さん（法）は「みんなかっこいい。甲子園に行けないが、八戸から声援を送ります」と声をからして応援した。

光星は舞台の試合展開を見せ、10－0で逃げ切り、八戸から声援を送る代表。最後まで諦めなかったセンバツ初勝利。震災のため、ナインに同行できなかった硬式野球部マネジャーの新3年生2人は涙を流して喜んだ。

斗澤優奈さん（心）は「期待に応えてくれたみんなに、ありがとうと言いたい」、佐京麗奈さん（心）は「次も学校での応援だけど、甲子園と変わらない精いっぱいの応援をする」と話し、「勝ち進んで被災者に元気を与えて」と声をそろえた。

一方、対戦相手の水城も被災した茨城県の代表。最後まで諦めない姿に、会場からは拍手をたたえる拍手が湧き起こった。

法貴新一校長は「震災後に希望をしてくれた地域の方もいて、大変感謝している。野球部が八戸の大きな希望になってくれれば」と感慨深げに話した。

同市新湊2丁目の自宅が津波被害を受け、親類宅で暮らしている新3年生の中唐優樹さん（心）は「勢いのある戦いで、自分にとって力になった。このまま優勝してほしい」と昭和、ナインから勇気をもらった様子だった。

整列した光星ナイン（手前）に大きな拍手と声援を送るアルプススタンドの友情応援団＝25日午後、甲子園球場

「友情応援」アルプス満席

兵庫、大阪の高校生ら

三塁側アルプススタンドには、甲子園入りできなかった光星震災応援団に代わり、兵庫県と大阪府の高校生らが「友情応援」に駆け付けた。勝利を収めスタンド前に陣列したナインに「がくやった」と、温かいエールを送った。

光星野球部父母の会とOB、青森県人会のほか、仲井宗基監督の母校である桜宮高（大阪）と神戸国際大付高（兵庫）、ナインの出身野球チームの選手ら教育人が訪れ、アルプス席はほぼ満席に。

「心ひとつに友情」「がんばろう！日本」と書かれた紙を掲げて盛り上げた。

主軸の田村龍弘選手が中学時代に所属していたオール茨城ボーイズ（大阪）の坂本和輝君（二）は「震災で来られない人の分まで、僕たちが声をからして応援します」と力強く語った。

大応援団に、川上竜平主将は「こんなに大勢の人たちが会ったこともない僕たちを応援してくれた」と感激していた。

本紙が速報配布

25日の選抜高校野球大会1回戦で八戸市の光星が水城（茨城）を10－0で下し、センバツ初勝利を挙げたことを受け、デーリー東北新聞社は市内のショッピングセンターや避難所などで光星の勝利を伝える速報を配布した。

このうち、同市沼館4丁目のシンフォニープラザ沼館の出入り口で速報を受け取った買い物客らは「みんな震災で気がめいっているが、久しぶりの明るいニュースでうれしい」「これからテレビを見るのが楽しみ。次も勝ってほしい」と喜んでいた。

デーリー東北新聞提供